

令和四年度採用

群馬県公立高等学校教員選考試験問題

国語

受験番号		氏名	
------	--	----	--

- 一 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 二 問題は、一ページから四ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 三 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 四 「終了」の指示があつたら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と番号順に重ねた解答用紙を机の上に置いてください。
- 五 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 六 この問題用紙は、持ち帰ってください。

一 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(苫野一徳の文章による。竹田青嗣・西研編著『現象学とは何か 哲学と学問を刷新する』)

- 問一 傍線部①、②について、カタカナは漢字に改め、漢字は読みを平仮名で書け。
- 問二 傍線部Ⅰ「カラス」の例は、どういった意図で挿入されていると考えられるか、書け。
- 問三 波線部X、Y、Zで用いられている()はどのような役割を果たしていると考えられるか、それぞれの役割について説明せよ。
- 問四 傍線部Ⅱについて、フッサールが「この客観世界があるとする考え方(自然的態度)を、まずはいったん脇に置いておかなければならない」と述べるのはなぜか、書け。
- 問五 空欄Aに当てはまる語として最も適切なものを次から選び、記号で答えよ。
ア 有理 イ 真理 ウ 倫理 エ 原理 オ 物理
- 問六 傍線部Ⅲ「現象学が、単なる懐疑主義・相対主義と大きく異なるのはここからだ」とあるが、「現象学」と「懐疑主義・相対主義」の共通点と相異点について、分かりやすく示した板書例を書け。
- 問七 空欄B・Cに当てはまる表現を、本文の内容を踏まえて、それぞれ書け。
- 問八 傍線部Ⅳについて、「主観⇄客観パラダイム」と「内在⇄超越パラダイム」とは、それぞれどのようなものか、説明せよ。
- 問九 「高等学校学習指導要領」(平成30年3月告示)の国語に示された新科目「現代の国語」において、「話すこと・聞くこと」又は「書くこと」のいずれかを指導する際の教材として本文を活用する場合、どのような言語活動を通して、どのような事項を身に付けるような指導ができると考えられるか、「現代の国語」2内容を踏まえて、書け。なお、「話すこと・聞くこと」「書くこと」のいずれか選んだほうに、○を付けること。

二 次 の 文 章 を 読 み、 後 の 問 い に 答 え な さ い。

(『堤中納言物語』による)

問一 二重傍線部ア～ウの読み方を、平仮名で答えよ。(現代仮名遣いでよい。)

問二 波線部 a～d を口語訳せよ。

問三 傍線部①について、誰が何について「思ふ」のかを明らかにして口語に訳せ。

問四 X の和歌は男のどのような心情を表現しているか、説明せよ。

問五 傍線部②、③の敬語は、誰から誰への敬意を表しているか。解答用紙の空欄に当てはまるものをそれぞれ選び、記号で答えよ。

A 読者 B 男 C 男が普通っていた女 D 白装束の男 E 作者

問六 傍線部④について、品詞分解し、文法事項を説明するための板書例を示せ。

問七 傍線部⑤・⑥の助詞の用法は何か、それぞれ書け。

問八 傍線部⑦について、男はなぜ「うれしくも見つるかな」と思ったのか、理由を説明せよ。

問九 本作品と同じ時代に書かれた作品として最も適切なものを次から選び、記号で答えよ。

A 『御伽草子』 B 『万葉集』 C 『更級日記』 D 『宇治拾遺物語』 E 『とほずがたり』

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、訓点を省いたところがある。)

『戦国策』による

- 問一 波線部 a) e) の語の読み方を、送りがなも含め、平仮名で答えよ。(現代仮名遣いでよい。)
- 問二 傍線部①は、何がどのような状況であることを表現しているのか、説明せよ。
- 問三 傍線部②について、臣下たちが太子を諫めた理由は何か、書け。
- 問四 に入る一字を、本文から抜き出せ。
- 問五 傍線部③、④を書き下し文に改めよ。
- 問六 傍線部⑤について、恵公は、太子が何を疑われる可能性があるかと述べているのか、説明せよ。
- 問七 傍線部⑥を口語に訳せ。また、なぜ筆者はこのように述べたのか、理由を説明せよ。
- 問八 「高等学校学習指導要領」(平成30年3月告示)の国語に示された新科目「言語文化」において、「読むこと」の教材として取り上げる文章にはどのようなものがあるか、「言語文化」3 内容の取扱いを踏まえて、書け。

科目	国語解答用紙	二枚中の一	受験番号		氏名	
----	--------	-------	------	--	----	--

(4年)

問一

①		②		③		④		⑤	
⑥		⑦		⑧		⑨		⑩	

問二

問三

問四

問五

問六

問七

B		C	
---	--	---	--

問八

問九

「話すこと ・聞くこと」	
「書くこと」	

二

問一

ア		イ		ウ	
---	--	---	--	---	--

問二

a		b	
c		d	

問三

問四

問五

②	から	<	③	から	<
---	----	---	---	----	---

問六

問七

⑤		⑥	
---	--	---	--

問八

問九

三

問一

a		b		c		d		e	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

問二

問三

問四

問五

③		④	
---	--	---	--

問六

問七

口語訳	
理由	

問八

以下はあくまでも解答の一例です。

科目	国語解答用紙	二枚中の二	受験番号	氏名
----	--------	-------	------	----

(4年)

問一

①	把握	②	紫外線	③	敷	④	けいじじょうがく	⑤	陥
---	----	---	-----	---	---	---	----------	---	---

⑥	しんぴよう	⑦	繰	⑧	封	⑨	命題	⑩	そてい
---	-------	---	---	---	---	---	----	---	-----

【②点 × 10 = ⑩点】

問二 (例) 黒い物が、人間に見えているままに絶対的に黒であるとは言い切れない可能性のあることを示すため。

【⑩点】

問三 (例) Xの()は、直前の内容をより具体的な発言や思考の例として分かりやすく示す役割、Yの()は、特定の用語をより一般的な表現に言い換える役割、Zの()は、現象学の中での専門的な学術用語を補足的に示す役割を果たしている。

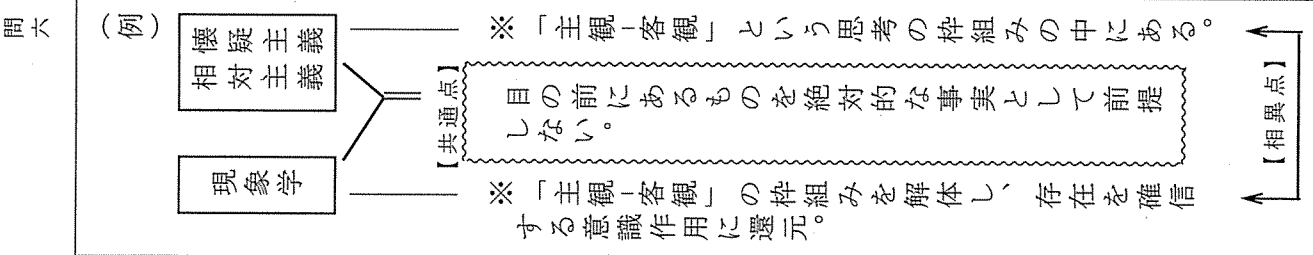
【⑩点】

問四 (例) 目に見える物が客観的に存在するという懷疑可能な前提を思考の始発点とすると、その上に築かれる一切の理論も懷疑可能となつてしまい、形而上学的独断論や調停不可能な対立を生む可能性があるため。

【⑩点】

問五 エ

【④点】



【⑩点】

問七

B	(例) 存在しない	C	(例) 見えていない
---	-----------	---	------------

【④点 × 2 = ⑧点】

問八 (例) 「主観-客観パラダイム」とは、何らかの客観物に対して主観が認識していると考えることであり、「内在-超越パラダイム」とは、見えてしまっているという疑い得ない「内在」を根拠に、対象の存在を「確信・信憑」している捉える考え方のこと。

【⑩点】

問九

「話すこと」 ・「聞くこと」	(例) 本文を引用しながら自分の意見や考えを論述する活動を通して、読み手の理解が得られるよう、論理の展開などを考えて、文章の構成や展開を工夫することを身に付けるような指導。
「書くこと」	

【⑩点】

科目	国語解答用紙	二枚中の一	受験番号	氏名
----	--------	-------	------	----

(4年)

二

問一	ア ついじ(ぢ)	イ すいがい	ウ とのい(ゐ)
----	----------	--------	----------

【②点×3＝⑥点】

問二	a (例) 尼などになったのだろうか、気がかりで	b (例) 優美である
	c (例) どうして今まで起きないのか	d (例) だんだんと夜が明けるのでお帰りになった

【③点×4＝⑫点】

問三	(例) (さつき別れた) 女が男の早帰りについてどう思っているだろうか、かわいそうに思うが
----	---

【④点】

問四	(例) (さつき別れた) 女や通り過ぎて見てきた場所よりも、目の前の桜に心惹かれる心情。
----	--

【⑥点】

問五	② B から C へ	③ E から B へ
----	------------	------------

【②×4＝⑧点】

問六	(例) 下二段動詞 係助詞 サ変動詞 助動詞(強意)「ぬ」 助動詞(現在推量)「らむ」 「明け」連用形 (疑問) 「し」連用形 終止形 (確述用法) 連体形 明け / や / し / め / らむ
----	--

【④点】

問七	⑤ 同格	⑥ 主格
----	------	------

【②×2＝④点】

問八	(例) 優雅で気品のある女性を、思いがけず見つけることができたから。
----	------------------------------------

【④点】

問九	C
----	---

【②点】

三

問一	a かつ	b ただ	c まみえて	d ここにおいて	e かくのごとくして
----	------	------	--------	----------	------------

【②点×5＝⑩点】

問二	(例) 雪が牛の目の高さまで積もっている状況。
----	-------------------------

【⑥点】

問三	(例) 雪の中で柵を見送る人民は苦勞をし、出費も膨大になること。
----	----------------------------------

【⑥点】

問四	義
----	---

【④点】

問五	③ 子復た言ふ(こと)勿かれ(と)。	④ 故に藥水をして之を見せしむ(と)。
----	--------------------	---------------------

【③×2点＝⑥点】

問六	(例) 父の葬儀を急ぎ、早く代替わりをしたいと思つているということ。
----	------------------------------------

【④点】

問七	口語訳 (例) どうして小さな功績だろうか、いや大きな功績である。
	理由 (例) 太子を譲ると同時に、子としての父に対する正しいあり方を天下に知らしめたから。

【④×2＝⑧点】

問八	(例) 古典及び近代以降の文章。日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文を含めるとともに、我が国の言語文化への理解を深める学習に資するよう、我が国の伝統と文化や古典に関する近代以降の文章を取り上げることに留意する。
----	--

【⑥点】